

航空宇宙ニュースレター

AEROSPACE NAVIGATION NEWSLETTER

第 54 号

平成 18 年 9 月 29 日

(社)日本航海学会 航空宇宙研究会

平成 18 年度秋季研究会のお知らせ

平成 18 年度の航空宇宙研究会の秋季研究会は、富山県富山市の富山国際会議場にて 10 月 12 日(木)の午前中に開催されます。最近の慣例通り、今回も講演会が先(11日)ですが、今回は木曜日ですのでお間違えのないようご注意願います。航空宇宙研究会担当分の予定は次の通りです。

1. 航空宇宙研究会の日時：

平成 18 年 10 月 12 日(木) 10:00 ~ 12:00
(運営委員会：同日 12:00 ~ 12:55)

2. 会場：204 室(2 階)

(運営委員会：204 室(2 階))

公共交通機関：

JR 富山駅より徒歩約 15 分

JR 富山駅よりバス 5 分、城址公園前下車 徒歩 3 分

路面電車 丸の内駅より徒歩約 3 分

富山空港連絡バス 25 分、総曲輪下車 徒歩 2 分

住所

〒930-0084

富山県富山市大手町 1-2

Tel. 076-424-5931 (代),

076-493-4455

Fax. 076-493-7170

<http://www.ticc.co.jp/contents4.html>

3. 議題： (以下敬称略)

10:00 ~ 10:40

「航空衛星通信システムの動向」
住谷 泰人、石出 明(独立行政法人
電子航法研究所)

10:40 ~ 11:20

「運輸多目的衛星(MTSAT)の航空
通信概要」 高橋 秀治(国土交通
省)

11:20 ~ 12:00

「準天頂衛星を用いる高精度測位実
験」 坂井 丈泰、伊藤 憲、福島 宗
之助、武市 昇(独立行政法人 電子
航法研究所)

その他の研究会と講演会について

(1) GPS/GNSS・航法システム合同研究会
平成 18 年 10 月 12 日(木) 9:30 ~ 15:45
201 講義室(2 階)

9:30 ~ 12:00

「ネットワーク RTK-GPS について」
浪江 宏宗(防衛大学校)

「地上デジタル放送(ワンセグ)の海
上受信実験」 河合 雅司(富山商船
高等専門学校)

「地上デジタル放送を利用した GPS
補正データ電送実験」 山本 実(北
日本放送)

「天文測量から衛星航法へ」 小網
均(堀江商会)

13:30～15:45

「RTK-GPS と GIS の融合した福祉
安心除雪システム」 宮下 寿幸（く
びき野 GIS 共同組合）

「次世代 GPS と Galileo の特長と利
用面からの考察」 鷲頭 浩一（日本
無線）

「後処理用広域 DGPS 情報の配信状
況」 坂井 丈泰（独立行政法人 電子
航法研究所）

(2) 日本航海学会第 115 回講演会

平成 18 年 10 月 11 日（水）

航空宇宙関係の発表は、第 2 会場（202 室）
で発表される次の 3 件の予定です。

-10 14:50～15:10 「ADS 予測位
置誤差に与える伝送遅延の影響」
石出 明、住谷 泰人（独立行政法人 電子
航法研究所）

-11 15:10～15:30 「RNAV 到着
機の横方向経路逸脱量の推定」 天井
治（独立行政法人 電子航法研究所）

-12 15:30～15:50 「複数の平行
経路における横方向オフセットの横方
向衝突危険度への影響」 長岡 栄、天
井 治（独立行政法人 電子航法研究所）

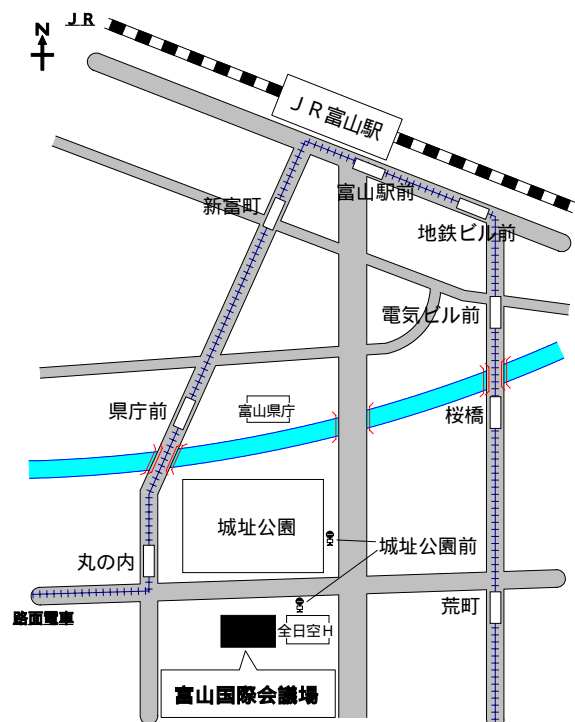
GPS 関連の発表は、引き続き第 2 会場
（202 室）で発表される次の 3 件の予定で
す。

-13 「地上波デジタル TV 放送
に重畳された GPS 補正データの海上
受信実験」 河合 雅司、千葉 元、
横井 幸治（富山商船高等専門学校）、
塩屋 徹朗（エル・エス・アイジャパン）、
山本 実（北日本放送）、安田 明生（東
京海洋大学）

-14 「DGPS 補正值中の RRC の必
要性と PRC の更新間隔」 菊池 孝

則（東京海洋大学大学院生）、久保 信
明、安田 明生（東京海洋大学）

-15 「次世代の携帯電話を用いた船
内のパーソナルコミュニケーションと
人員把握 -Wireless VoIP 端末と
GPS 内蔵型携帯電話の利用 -」 梅野
智恵（東京海洋大学大学院生）、土本 和
彦（東京海洋大学大学院）、鈴木 治（鳥
羽商船高等専門学校）、安田 明生（東
京海洋大学）



富山国際会議場 案内図

EUGIN、欧州電波航法計画への行動を要請

航法学会の欧州グループ (EUGIN) 議長の Rein van Gooswilligen 氏は長く待ち望まれた欧州電波航法計画 (European Radionavigation Plan, ERNP) を推し進めるためにブリュッセルにおいて次なる行動を呼びかけた。

欧州委員会は Galileo 営業権契約が締結さ

れるまで ERNP の活動を遅らせていた。しかし方針が変わり、今や契約締結の有無に関わらず計画を推し進めるための作業を開始するつもりである。

van Gooswilligen 氏は欧州航法会議において代表達に、ERNP は大変重要な実行計画のひとつであり、欧州のメンバー国が従うべき指針の概要であると語った。「例えば、eLoran について言えば、安全性向上のために使える基地局があるかどうか見つけだすために我々は行動することができる。」

彼は欧州からのニュースに reacting、ad-hoc ERNP コンタクトグループを結成したことも伝え、彼が言うところの「欠くことのできない次のステップ」への助力をその ERNP に対して興味を示している全ての人々に呼びかけた。

「各国の代表は計画の本質を汲み取り、認識し続けるべきである。欧州委員会に対し圧力を維持すること、そしてその計画を制定するための勢いを確固たるものにすることは全員の義務である。この達成のためには国際的な航法団体の援助が必要である。」と彼は語った。

(RIN Navigation News, May/June 2006 より 訳：藤田 雅人/天井 治)

航空交通管理に関する合意

欧州委員会(EC)と米国連邦航空局(FAA)の合意の調印にしたがって、今後は欧州と米国の航空交通管理(ATM)が円滑になりそうだ。

その協定では、航空交通管理において一貫性を持たせるために Single European Sky ATM research program(SESAR)と US Next Generation Air Transport System (NGATS)が連携していくことを合意した。運輸委員会委員の Jacques Barrot 氏はこう語った。「欧州と米国の間で互換性のある技術及

び基準を持つべきだ。これは明らかに経済性の問題であるというだけでなく、安全性に関する問題でもある。大西洋の真ん中で航空機に機上装備の切り替えをお願いできないからね。」

(RIN Navigation News, July/Aug. 2006 より 訳：藤田 雅人/天井 治)

TCAS、空域の安全性を向上

欧州の空の飛行の安全は、欧州では ACAS として知られる、独立した交通警報、衝突回避システム、すなわち TCAS II の義務的搭載の第2段階の成功裏の完了により高まっている。第1段階は大型民間航空機に集中していたが、第2段階では、5,700 kg より大きいかまたは、19 客席より多い客席を持つ小型民間航空機にその装置の搭載義務が拡大された。

第2段階の規制により影響を受けた航空機の95パーセント以上は現在 TCAS II の搭載が完了し、搭載は現在、未搭載の航空機でも進められている。

TCAS II 計画担当者は「航空機衝突防止システムの導入計画の第1段階と第2段階の完了をもって、欧州空域は今、TCAS II を搭載した商用航空輸送のための航空機やビジネス航空の航空機が非常に高い割合で飛行している。これは欧州の航空交通システムはこの重要な安全網からの最大の恩恵を受けることができることを意味している。」

(RIN Navigation News, May/June 2006 より 訳：天井 治)

ガリレオ名の所有権の主張、裁判所で敗訴

第一審のルクセンブルグの裁判所は、提案された衛星航法システムに対するガリレオの名前は欧州共同体(EU)が所有するだろうとの判断を示した。5月10日に、その裁判所で

は、欧州委員会（EC）に対して、Galileo International Technology LLC によって起こされた主張を却下した。

Galileo International Technology LLC は航空会社やホテル業界に電子サービスを提供する世界の先駆者である。彼らは EC は彼らの商標である「ガリレオ」を不法に使用していると申し立て、その名前をやめて、賠償金を払うことを要求した。しかし、その裁判所は「ガリレオ」の名前の使用は 1999 年に EC や ESA によって採択されており、Galileo International Technology LLC には被害はもたらさない。なぜならば、それらは同じ商標でも競争するものではなく、その 2 つの「ガリレオ」システムを混同する危険性はないからである。

その裁判所は次のようにも指摘した。「ガリレオ」の名前は有名な欧州の数学者で物理学者で天文学者である人物の名前であり、このような衛星航法システムのプロジェクトに対して使われるのは適当である。

Galileo International Technology LLC のその判決への上告期限まで 2 ヶ月間ある。

（RIN Navigation News, May/June 2006 より 訳：天井 治）

イベント案内

（国内）

- ・第 44 回飛行機シンポジウム
日程 2006 年 10 月 18～20 日
会場 大宮ソニックシティ
- ・日本航海学会秋季講演会
日程 2006 年 10 月 10～12 日
会場 富山商船高等専門学校
- ・電子情報通信学会 安全性研究会
日程 2006 年 10 月 26 日
会場 東京海洋大学 越中島会館
- ・GPS / GNSS シンポジウム 2006

日程 2006 年 11 月 15～17 日

会場 東京海洋大学 越中島会館

- ・第 15 回交通・物流部門大会

日程 2006 年 12 月 13～15 日

会場 川崎市産業振興会館

- ・2007 年電子情報通信学会総合大会

日程 2007 年 3 月

会場 名城大学（愛知県名古屋市）

- ・電子情報通信学会 宇宙・航行エレクトロニクス研究会

2006 年

10 月 27 日 新潟大学（新潟県新潟市）

11 月 24 日 JAXA 相模原キャンパス

12 月 22 日 NICT 鹿島宇宙通信センター

2007 年

1 月 23 日 長崎大学（長崎県長崎市）

2 月 28 日 日本工業大学（埼玉県南埼玉郡）

<http://www.ieice.org/cs/sane/jpn/>

（海外）

- ・12th IAIN World Congress

日程 2006 年 10 月 18～20 日

開催地 済州島（韓国）

- ・Asia Navigation Conference 2006

日程 2006 年 10 月 20～21 日

開催地 済州島（韓国）

- ・第 20 回飛行機シンポジウム

国際セッション

日程 2006 年 11 月 15～17 日

開催地 釜山（韓国）

- ・ION NTM 2007

日程 2007 年 1 月 22～24 日

開催地 サンディエゴ（米国 CA）

- ・ION 63rd Annual Meeting（2007）

日程 2007 年 4 月 23～25 日

開催地 ケンブリッジ（米国 MA）

<http://www.ion.org/meetings>